

PRO-LIFE NEWS

(中絶に反対する運動)

〒780 高知市新本町一丁目七番三十一号

『聞いて、そして分かって。』

私は今とっても興奮しています。ついさっき元気な男の子を産んだばかりなんです。小さな生命が自分の体の中で育まれていく喜び。私のおなかをけり続けていた子どもにやっと会えたこのうれしさはたとえようありません。でも今回の出産に限って言えば、同時に最も辛い悲しい瞬間でもあります。こんなにすばらしい子どもを私は授かりました。でも、私の苦しみは、この子を家族の持つ我が家に連れて帰れない事にあるのです。

この子を養子にだそうと、前から決まっていたんです。夫と私は、デイリー夫人を赤ん坊の母親に選びました。彼女は子どもが出来なくて、子どものいる生活にあこがれていました。彼女に私の子どもを託す

事は、私のこれまでに払った最も大きな自己犠牲の行為だったと思います。胎内で育んだこの子がやうと生まれたと言ったら、もうお別れを言われなければならぬなんて。こんなに愛しいこの子に。

今、ケビン・ブライアンは(あなたがこの可愛い男の子にそう名付けてくれたんですよね)あなたの腕に抱き上げられているのでしょう。その子と毎日過ごし、世話をやき、愛し、しっかりとその手の中で抱く幸せは、今やあなたにあるのです。その子がいなくなってしまう。ケビンがもう私の側にいない事で、まるで胸にぽっかり穴があいたみたいな孤独感を味わっています。

あの子をこの腕の中に抱きしめてほほをすり寄せ、赤ん坊特有のあの甘い香りをすいこみたい。ああ、あの子がここに、私の側にいたら！でもそれは無理だとわかっています。あなたがその子を愛してくれると信じています。どうして愛さずにいられるでしょう。そんなに可愛い子どもを。その子へのこの想いは今も私の胸に生き続けています。ああ、その子を抱いたあの時の事、あの愛らしい小さな顔を忘れません。私はその子のこれからの日々の事にも想いをめぐらします。あなたとのこれからの日々がどんなにその子にとって幸せに満ちたものになる事でしょう。あなたを見つめる事ができ、私たち夫婦は本当に幸運だったと思います。その子の面倒を見てくれるのがあなただから、私は安心していられるのです。充分に愛してもらってないんじゃないかしら、と心配しないでいら

れるのです。その子が充分な愛情に育つだろうか分かっていません。でも、私はどうなるのでしょうか。その子を産んだ喜びを誰かとわかちあいたいのに。私の周りの人は、私が養子縁組という形でその子をあきらめねばならなかったため、今回の出産の話題にあえて触れようとしません。私は出産のいろんな想い出や喜びについて誰かとわかちあいたいのに。私とその子と共

にいたあのわずかな時間の喜びを。でもそれができないのです。その子がいなくてなんだか悲しくて孤独で、ああこの腕に抱けたらなあ、と思ってる時でも、誰も話す相手がいません。みんな、まるでその話題は決して持ち出されるべきではないというかのごとく振るまい、私に何事も起きなかったかのように扱っています。

にいたあのわずかな時間の喜びを。でもそれができないのです。その子がいなくてなんだか悲しくて孤独で、ああこの腕に抱けたらなあ、と思ってる時でも、誰も話す相手がいません。みんな、まるでその話題は決して持ち出されるべきではないというかのごとく振るまい、私に何事も起きなかったかのように扱っています。

にいたあのわずかな時間の喜びを。でもそれができないのです。その子がいなくてなんだか悲しくて孤独で、ああこの腕に抱けたらなあ、と思ってる時でも、誰も話す相手がいません。みんな、まるでその話題は決して持ち出されるべきではないというかのごとく振るまい、私に何事も起きなかったかのように扱っています。

私はむしろ話したいのに。みんなに、「私、男の子を産んだのよ」って言いたいのに。「この世で一番可愛い赤ん坊よ」って。

「でも私、その子を手放して養子縁組に出したの。家にはすでもう三人も子どもがいて、夫は運悪く失業したばかりで仕事になかったの」って言いたくない。本当は自分一人で我慢しないで、思う存分泣いて、この胸のうちの誰かに聞いてもらいたいんです。でも、そんなに悪い事ではないはず。こんな形で子どもを手放すより中絶した方が私にとって良かったとみんな思っているでしょう。確かに辛いし、子どもを死なせてしまったのと同じくらい悲しい。もし、赤ん坊が死んでいたら、みんな私をなくさめたり、カードを送ったりしてくれただろうが、でも私には一通のカードも寄せられません。子ども

の死に遺憾を述べるカード、健かな子どもの誕生にお祝いを述べるカードのどちらも届きません。話もわかってくれないんです。そうじゃないんです。みんなもつとこういう経験をした母親や両親の気持ちに気づくべきなんです。大事なものをなくしたこの悲しみに。

でも、同時に、この世に生命を送り出した喜びにも気付いて欲しいのです。自分の産んだ子どもを自分以外の女性がその手に抱いて喜びにひたっている。もし自分がいなければ、彼女が体験できなかったであろう喜び。それらがどんなに大きい。自分でもどう表現していいかわからない複雑な気持ちなんです。うれしいけど同時にとても悲しい、としか言えない様がありません。

もしどなたか知り合いに私のような経験をされた方がいたら、どんな気持ち

ちなのか彼女に尋ねてあげて下さい。彼女の赤ん坊がどんな様子だったか、体重はどのくらいあったか、目や髪の毛は何色だったか、そんな事を全部聞いてあげて下さい。彼女を抱きしめてこう言ってあげて下さい。

「あなたはなんて素晴らしい事をしたんでしょう。母親としての喜びを他の女性に与えてあげるなんて、すばらしい行為だわ」って。それが、あなたが思うよりずっと彼女の支えになるはず。愛しているわ。私の赤ちゃん。私があなたにあげられなかったものをかわりに与えてくれる人が欲しかったの。お願いだから、みなさん、私が私の愛する赤ん坊のために正しい事をしたと言って下さい。

デビー・ジョンソン

親と十代の性

Part 7

仲間の影響は？

処するべきかを教えられらるだろうか。次の『問題の法則』から潜在的問題を子どもに感じさせることから始めよう。

(A) 問題の法則

- 十代の若者が性行動への圧力を受けるのは多くの場合同世代の仲間からである。この圧力は運動部に入るための成績を維持するとか、奉仕活動に参加するといったようなプラス面もあるが、反対にマイナ面もある。何種類かの統計によれば、仲間が性的に活発である場合、57%の人が自分も同じように活発だと答えている。また仲間がそういった意味であまり活発でない場合、2%の人しか活発だと答えていない。つまり明らかに十代の若者にとってつき合う仲間は彼らの行動に多大なる影響をおよぼす。
- 我々はこのようにして若者に仲間からの圧力に対して
- 1 それは法律に反するものだろうか？
 - 2 それは論理的でかつ理にかなったものだろうか？
 - 3 他人がどう言おうと、それはあなたにとって意味の通るものか？それは友情を傷つけるものだろうか？あるいは誰かを傷つけることになるだろうか？
 - 4 あなたがその事をすれば、友達を引っぱり込むことになるのではないか？
 - 5 その計画や行動はどの方向に向かうのだろうか？他の人をどのように巻き込むのだろうか？

あなたをもどのように
巻き込むだろうか？

6 自分のしたことを後で
振り返ってみて、自分は
よくやったと思えるだ
ろうか？

7 直面している問題から
自分を切り離してみよ
う。それが自分が最も尊
敬する人の問題だと仮
定しよう。そしてその人
だったらどのような対
処するかを考えてみよ
う。

8 最終的な決断は公の目
にさらしてから下すよ
うにしよう。自分の家族
や友達にも知ってもら
いたいだろうか？

(B) 『ノー』と
言うこと
十代の若者は即時に
「ノー」と言うことができ
るし、またその際にいろ
んな手段を使つたろう。そ
の時の態度と口調で説得

力を増すこともできる。効
率的な(ノー)という言い
方・

1 「ノー」と言う。ただ
の「ノー」一言

2 その場を去る

3 驚いた顔をする

4 「先約があるから」と
空言い訳をする

5 話題を変える

6 言っていることを無
視して、聞いていない
振りをする。

7 ユーモアを使う

8 ジェスチャーで無視
する

(C) 情報を
集める方法

十代の若者は、「ノー」と
言うべきかどうかを決め
るのにすでにある情報を
整理する必要がある。情報
を集める方法には次のも
のがあります。

* 情報を蓄えそして得

よ：質問すること。自分の
子どもに親がするのと同
じような質問を友達にさ
せること。つまり「どこに
行くのか」「だれと一緒に
のか」「監視役もいるのか」
などである。質問させるこ
とによつて、情報を収集す
るだけでなく、決断を下す
時間を稼げることにもな
るからだ。

* 即時に再現してみる。
問題をはっきりさせるこ
と：詳細にわたつて聞く
こと。問題となつて行
為は何なのか？親のいな
い所でパーティーか？
ビールが出るのか？親に
黙つて、こっそり抜け出す
つもりなのか？その場で
すぐ再現してみると、質問
された事柄から得た情報
を考え直すことができる。

* 結果を述べてみる・

長期的、短期的両方の面か
らである。今日より先のこ
とを考えることが可能で
あること、更には明日に
なつて「深刻な問題」に陥

らないことが重要である
ことを若者に気づかせる
のだ。

「ノー」というのにいく
つもの理由を用意する必
要はない。子どもには
「ノー」と言い続けること、
そして最初の理由を変え
ないことが大切だと教え
るべきである。

* 選択肢を与えよ・事
前にある程度の選択肢を
用意しておくこと。若者が
いくつかの選択肢を思い
つけるように手伝つてや
ること。きれいにつき合え
る方法を与える。たとえ
ば、テニスで汗を流した
り、みんなでボーリングに
行くなど。

* 自分の子どもにふさ
わしいテクニクを使う
こと。例えば、お世辞、ユ
ーモア、チャレンジ、シヨツ
クなどである。子どもの性
格に適した手段を選ぶよ
うにすること。

* ドアを開いたままに
しておくこと。つまりこれ

が最も難しいのだが最も
重要なステップである。子
どもの選択肢を友人たち
が認めず、更に彼らの要求
に「応じる」よう圧力をか
ける場合は、そこから逃げ
去つた方がよい。去ること
によつて、あなたの子ども
は実際友人たちに圧力を
かけることになり、その場
の状況をコントロールす
ることができるのである。

そうしなければあなた
の子どもは拒絶されたと感
じてしまうし、その上「友
人たち」の方が去つてし
まった場合、その場をコン
トロールすることは無理
になる。自分が反対してい
るのは行動そのもので
あつて、決して友人たちを
けなしているのではない
ことを相手に伝えるよう
に助言するべきである。

十代の若者は現在のこ
とに重きを置き過ぎるあ
まり、ある状況から逃れよ
うとする場合、【そのやつ
かいなことを乗り越えて

か

行く】にはどうしたらいいか、理解していい。だから、親も自分の経験から、その年代の頃にあの友達と別れていて良かったと現在思えることがあればその経験を話してやる事が大切である。人生はおかまいなしに流れて行く。その行為が将来自分をだめにするようなことなのに、今実行するだけの価値があることなのかをもう一度問い直すこと。

自制心を育てようと努力している子どもを手助けし、またほめてやること。すると子どもはあなたのことを親として身近な存在に感じるだろう。結局は情報を与えてやったり、個人的関係の持ち方を教えてやったりすることは、計画どおりの行動よりも自然に受け止めてもらえるのである。情報は形式張らずに与えるものである。自分が同世代の仲間からの圧力に抵抗した時の話

を聞かせてやると良い。仲間の圧力が非常に重いこと、若者がまだ未熟であることなどを挙げて、彼らが決めることが必ずしも正しくないことを分からせること。親が見方についていることを強調すること。失敗から自分を見いだし、

学んで行くよう手助けしてやること。決断を下す際にどこで誤ったのかを話し合おう。もつと良い方法があるのではないだろうか。仲間の圧力の問題を考

える時、若者は一人一人それぞれ個人として違うという事を考えてやらなければならぬ。人一倍圧力を重く考える若者の中にはいるだろう。この圧力は一対一のレベルとグループのレベルで起きるものだ。対「グループ」は苦手でも、一個人に対してならば比較的容易に拒否することが出来る若者もいれば、その反対の若者もいる。「スーパーマン症候群」

を覚えておこう。つまり、十代の若者は自分に何か悪いことが起るうとは考えていないということである。

いかに多くの情報があっても、発達は徐々に行われるものであり、急に若者は変わらない。更に、避妊薬や麻薬についての研究によれば、事実についての知識は人の行動を左右するほどの力はない。行動に最も影響を及ぼすのは、情報ではなく動機づけなのである。

(続く)

語りと「選択」

ダイアン

私はダイアンと海辺で出会いました。彼女はまだ十四歳ですが、とても素敵で、きつと私はこのまま彼女とつき合っていきましょう。彼女は小さくてか弱く、もじゃもじゃの髪で疲れた青い目をしていました。そして、今日まで歩んできた道を少しずつ話してくれました。去年には中絶をした、と事もなげに言うのです。なんですか？ 私はショックを受けました。どのように努力しましたが、それはうまくいかなかったようで、彼女の目は大きくなり無邪気に「それって悪い事なの？」と聞くのです。私は自分の耳が信じられませんでした。まるで中絶に対する議論について、何も聞いた事がないような言い方だからです。どうして悪

いと思ひもしないで、人が別の人を殺すなんてありえるでしょう。

私は彼女の気持ちをつけたくなかったので、やさしく「ええそうね、中絶は悪いと思うわ」と答えました。彼女は興味をそらされたようでした。もつと色々聞きたかった様ですが、私は話題を変えたいと思いました。私達はアイスを買いに行きましたが、私はその日ずつとダイアンの事を心配していました。その夜ダイアンは中絶についての意見をもつと聞き出そうとしました。私は出来るだけ丁寧に、罪のない赤ちゃんが残酷にも殺されるから中絶に反対なのと説明しました。

ダイアンはこれまで三回中絶したと言いました。彼女は急に自分の事が心配になり、私の意見の正当性について興味を示しました。彼女は、中絶のうちの一回はレイプされ

た為だったと言つて、それはつまり正当防衛の殺しである、と結論づけました。彼女は、これは大変な問題を避ける為の殺しだから、すべての中絶は正当防衛の殺しの様なものだと言つのです。この子の單純な心の中では、自分の三人の赤ちゃんへの殺人は、正当化されているのです。彼女はそれ以来悩んでいません。彼女は又中絶する可能性がありません。正当防衛だ、と言いながら。

ミーガン・グリーン

生き抜くための

勇気

7年間の結婚生活で5度目に妊娠した時、「生みますか、どうしますか？」と医師に尋ねられた。

この言葉を聞くまで、中絶など思つてもいなかった。私はもらい子だった。父は、私をはらませた責任を取つて母と結婚させられた。子供の頃を思い出すのもおぞましい。2才半で父に捨てられ、8才の時、父が再び私の前に現れてからは、もっと不幸だった。近親相姦、飢え、暴力におびえながら、ただもう必死で生き延びた。

夫に医師の言葉を話すと、「ぼくはどつちでもいい。君がしたいようにしなさい」とだけ言つて、仕事に出かけてしまった。興味半分で、中絶経験のある女

性と話してみたいと思つたが、自分から中絶したと言つ人などいる訳はない。医師に相談すると「手術はほんの數分で済みますよ」とのことだった。

4児の母でありながら胎児の発育についてなんと無知だったか、当時を振り返る度ぞつとする。「妊娠6週半の胎児は小さな塊にすぎませんよ」と言う医師の言葉を信じるなんて。その後すぐに中絶をしたが、帰り道涙があふれて仕方がなかった。家に着いても悲しみはおさまらず、寢室の隅にうずくまつて泣いた。人前で涙を見せるのをやめてからも、心のかで泣き続けた。自分を汚らしく思い、孤独感に悩んだ。

私の奥底にある何かが凍つた気がする。赤ちゃんと同じ位雪や氷が良く夢に出てきた。だまされる、裏切られる、誰かに操られるといった被害妄想に襲

われた。心理学者を訪ねると「自分を許してあげなさい。気持ちをもつと楽に」とアドバイスしてくれたが、その方法までは教えてくれなかった。

2年後、再び妊娠した。今度は予期していたにも関わらず、気分は死にたいほど暗かった。いつそ気でも触れて、苦惱、赤ん坊にまつわる悪夢、自己嫌悪、墮落といった自分を取り巻く感情全てを忘れられたらどんなにいいか。今回も12週目で殺してしまつた。「手術の時、卵管を結んだのもう妊娠はしないですよ」と医師に言われた。前回も今回も始末した子どもの様子を医師に教えてもらった。(最初は女で1月15日、2度目は男で3月29日にこの世を去つた。だから毎年1月と3月が来るのが恐ろしい。)

中絶後何年かたつて、合併症が起こる事があるなど知らなかった。胎児を吸

い出す機械の高圧で、子宮が裏返つてしまふ危険もあるという。私も例外ではなく、子宮を早期摘出しなければならなくなった。

中絶はこれほどひどい自己否定や不信感、疑念を生み、その結果、自分も他人もさらには自分の子どもすら愛せなくなつてしまふとは予想もしなかった。子どもの泣き声を聞くといられないなんて。鏡に写つた自分の瞳を正視できない。自分に自信が持たず、人生を左右する重要な決断でも踏み切れない。看護婦になる夢も自己嫌悪が災いして挫折した。

中絶をすすめた周囲の人達を殺人の共犯者と逆恨みしてしまう。それも自分の夫までも。子どもの父親まで憎いと思つている限り、円満な理想の夫婦関係など築けない。毎年、あの2人が生まれる頃になると、自滅的な気持ちにな

る。すすく育っている4人の子どもの誕生日にケーキで祝ってやれない残り2人を思い出す。母の日に彼らからカードをもらえないし、クリスマスのお贈り物だつて渡せない。問題を解決する即効薬と信じて中絶に踏み切ったが、心に深く刻まれた後悔の念を消す特効薬はどこにもなかった。

1度目も2度目も中絶前に牧師を訪ねたが、ここでも、赤ん坊は小さな塊にすぎない」と言われた。手術後自分に嫌気がさしたと話したら、神はあなたをお許しになった」との返事。神に懺悔し、許されたと言われても全く実感がわかない。相変わらず、自分が汚らしく価値のない人間に思えてしまう。精神科でショック療法も試みたが、無駄でした。

悪夢はえんえんと続く。仕事にのめり込んでダメ。やけぐいしてもダメ。

自虐の念から神経性拒食症になって、あやうく死にかけてたり、2回も発作を起こしたりした。お酒に頼つても、スッキリするのはほんの一瞬で、翌朝目覚めるとまた苦悩が始まる。心の痛みを取り除く様々な試みもわずか2ヶ月ほどしか続かなかった。

友達が中絶を考えていると聞いて、必死で説得したが、ついに彼女の気持ちを変えられなかった。妊娠擁護センターで1年ほど働いたが相談に来た女性の内3人もが中絶してしまつた。その後、カンザス州南東部に1カ所だけあるプロライフ団体で1年間代表を務めた。しかしどんな活動も心を救つてくれない。私の体験を通じて神の心を感じとり、中絶に反対する人が現れたらその時こそ救われる。そう信じる自分が間違っているかも知れないが、ひとつわかつた事がある。

神の許しは許されたと自分自身が感じるかどうかとは無関係なのだ。自分が許されるに値するかどうかという事とも関係ない。全ては神の恩恵に基づいている。だからこそ私はこわい。

ヨハネの第一の手紙1:9に書かれているように、ただ私達は罪を告白する事。そうすれば神はお許し下さる。私はその通りにした。神様は嘘をつくはずがない。

ジュディス・

エヴァンズ

声なき叫び

子宮の中で健やかに育つ赤ちゃん。それを、恐ろしい吸引器が襲い、赤ちゃんの小さな手を、足を、体を、引きちぎり、吸い込んでゆく。遂には、子宮内を漂う頭部も、はさみの様なものに破壊され、吸い込まれる。最後は、赤ちゃんの細胞のかけらだけが漂っている。

これは、少し前に保健の授業の時に見た、中絶のビデオである。私はそれにすぐくショックを受けた。赤ちゃんが、あんなふうに削り殺されるなんて思わなかったからである。しかし、それよりもなお驚き、ショックを受けたのは、赤ちゃんが吸引器の侵入に気づいた時、必死で逃げようつとして、子宮上部の壁にとりすがり、大きな口を開けて「声なき叫び」をあげ

る姿であった。その時、私はその「叫び」を聞いたと思つた。その叫びは、「お母さん！」という一言・・

私自身、幼い頃は喘息持ちで、何度がひどい発作を起こし、生死の境をさまよつたこともあつた。そんな時、やはり一番そばにいて欲しかったのが母だつた。医者がいなくても母がいれば、どれだけ息が苦しなくても耐えることができた。その赤ちゃんも、そうであつたのではないだろうか。お母さんならきつと助けてくれると、そう信じていたに違いない。その母親の意志で自分の身が滅びることも知らずに。もちろん、母親の方も言葉に出せないほど辛いだろう。一人の子どもを殺してしまつた罪悪感、お腹の痛み。下手をすれば腹膜炎を

起こしたり、一子子どもを産めなくなったりすることもあるという。なぜこのようなことになるのだろう。理由は千差万別であるが、家庭の事情や健康状態から仕方なしにということが大半だろう。しかし、中には無知や無責任から、

以前、テレビで見た女性達は、自分達に子どもなんてできるはずがない、と信じこんでいるようだった。それが軽率な行動へとつながっているのである。この言動は、彼女達自身の愚かさを暴露しているも同然に思え、私に嫌悪感を与えた。もし、彼女達が身ごもつたら、たどる道は一つである。

近年、日本では出生率の低下が大きな問題となっている。少子社会が続けば、高齢化社会がより深刻化してくるだろう。本来、国民や民族がその人口を保つためには、2.1以上

の出生率でなければならぬのが、一九九一年には1.53となり、低下の一端をたどっているのである。これは国から見ても大変な問題であり、子どもは国にとつての「宝」となることは明らかである。

しかし、その一方で四年ほど前の調査によると、わが国で一年間に殺された胎児の数は、約五十万人にものぼるそうである。五十万という命。私にはその数があまりに大きすぎて計りかねないが、ただわかるのは、もしそれだけの数が私達の間で殺されたのなら、一つの大きな都市は無人と化し、道路や川が血と死体であふれるほどの惨状となるということである。自分の子どもであるからといって、その子の生命を奪うのは許されることであるのか。日本の中絶の件数は徐々に減少しているが、十代の件数は急激に増加しているのである。

これが無知による殺人であるならば、決して許されるはならないことのはずである。しかし、そうはいながらも、一概には中絶が悪いとは言いがけない部分もある。もし私が成長して、結婚し、子どもを授かるとする。そしてその子どもが、重度の脳障害であることがわかったら、私はどうするのか、私自身わかんない。もちろんがんばって育てるのが本当であるだろうが、私はそれに耐えられるのか、赤ちゃんにとって、それが本当に幸せなのかかわからない。

そのように考えると、私も彼女達と同じである。むしろ私の方が偽善者面をされていて、始末が悪いかも知れない。けれども、無知と無責任を盾に赤ちゃんを殺すくらいであれば、私は偽善者でもかまわないと思うのである。

子どもを墮ろすのは人間だけであると、前に何か

で聞いたことがある。そして、理性を持ち、先のことまで考えることができるのも、人間だけである。男でも女でも、両方が理性を持ち、深く考えて行動するならば、殺されなければならぬ赤ちゃんも、母親としての深い罪悪感も、減ってゆくに違いない。

私は、もうこれ以上、「声なき叫び」は聞きたくないのだ。

「命の尊さに目覚めた高校三年生。別府市の明星学園の弁論大会にて優良賞を獲得。」